

第四回研究会報告

今年の共通課題に関連してつづけてきました研究会の最後として、さる九月十二日、第四回の研究会をもちました。共通課題の一つの主題となる現段階における村落社会研究の方法について検討する準備として「村落社会における現段階」とは何かを問うことがこの会の趣旨でしたが、報告者に仙台から上京していただいた細谷昂氏を迎え、活潑な論議をくりひろげました。当日は、報告者のほかに、大淵英雄・柿崎京一・川本彰・小池基之・島崎稔・高橋明善・戸沢行夫・中野卓・中野芳彦・野々村良恵・福武直・松原治郎・宮崎俊行・安原茂・山本英治・吉沢四郎・若林敬子・蓮見音彦、他に会員外参加者一名と、これまでの研究会の中でもっとも盛会で、遠来の報告者を迎えました。最近御不幸があつて一層忙しい中から、細谷氏は最近の宮城県仙北・山形県庄内など東北の水稲地帯の動向からえられた「直感」にもとづく報告であることをくりかえしことわられて、つぎのような報告をされました。